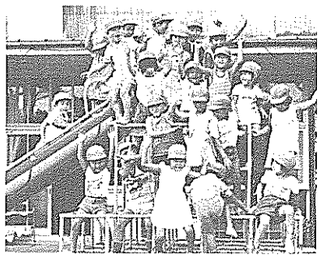
教育相談余話②
責任をおいすぎたお母さん

南国市教育相談所　高石文一

『中学二年の男の子ですが、もう半年も学校へ行っていません。夜は、明日は学校へ行くと言っていても、朝になるとなかなか起きられません。やっと朝食をすませて門を出たと思うと、くるっと引き返して自分の部屋に入ります。』

『自分の部屋でどんなことをしていますか。ひとりごとを言ったり、笑ったりしていませんか。』

『そんなことはありません。漫画を見たり、時には教科書をあけて見たりしています。』



てきぱきしたお母さんで、よく勉強しているのだろう、時々専門用語が出てくる。

『主人の方にも、私の方にも、このような者が出たことはありませんし。ほんとうに死ぬような思いをしました。』

『それは大変でしたね。ご苦心はよく分ります。長い間子どもさんにそんなことをされるとへとへとになります。疲れます。疲れた時はいくら考えても、考えが前に進みません。ちょっと休んでください。私が代って考えてみましょう。お母さんが今まで、話を聞いたり、本を読んだりした熱心さには頭がさがりますが、その知識はこの場合何の役にも立っていませんね。役に立っているのなら、子どもさんはこうはならないはずです。お母さんは当分お父さんの世話に専念してください。子どもさんがそれを、仕方のないこと――自分のことは自分でしなければ――と思うようになったら大きな前進です。次に子どもさんですが、いつまでも休んでいて、友達が進級しても自分はできないというのではやりきれません。教育相談所へくれば学校へ出席とみなすよう学校ともお話しますが、毎日続いてこちらへこれますか。』

『これます。』

『こちらは学校ではありませんので教えません。自分で勉強しなければなりませんが、できますか。』

『できます。この子の病気は治るでしょうか。』

『もう治っていますよ。その証拠に、ここまでバスに乗ってきているのではありませんか。ただ、今のところ学校に行けないだけです。それは、何かがお子さんの安全をおびやかしているので、この何かをこれから探すところです。』

『どれくらい通えばよいのでしょう。』

『お父さんといっしょで一カ月。お母さんとなら二カ月。本人だけなら三カ月がおよその見当です。』

『今まで、こんなにはっきり言っていただいた所はありません。どんな治療をするのですか。』

『相談所ですから、指導も治療もしません。ただ、お子さんがこちらに通って来られることで改善されることがあります。治療するのは本人で私ではありません。お母さんは、私のお子さんに対する〝接し方〟をみるとともに、お子さんの変化のぐあいをよく気をつけていてください。これぐらいのことであまり深刻に考えることはないでしょう。子どもの勉強は子どもがするものです。今日は久しぶりにお子さんといっしょに夕食でもしてお帰りください。』

それから、バスのって毎日通ってきた。二カ月がすぎて何でも話ができるようになった。

『だいぶ学校にも行かなかったので、今日は少し学校のことを思い出してみましょう。』

『はい』

『教室に何か気味の悪いものがあるね。』

『あります。』

『ぼんやりして、よく分からないけれど、もう少しはっきりさせて。』

『白いもので、冷い、ぬるぬるしたものです。』

『そう、だんだんでてきたね。わかったところから絵にかいてごらん。』かいているうちに女性の上半身がでてきた。全体としてお母さんによく似ているのである。

〝こわいものの正体が分かった〟

まさか、やさしいということになっているお母さんがこわいとも言えないものだから無意識のうちに〝封〟をして、自分にも分からないようにしていたが、手さぐりに探がしているうちに正体が出てきたものであろう。しった激励をするお母さんの姿がはなれず、ついに教室まで入りこんできている。

『いっしょうけんめいやっているんだけど、お母さんの期待どおりにはいかない。お母さんのしった激励がこわい――そうでしょう。』

『そうです。』

『正体がわからないと気味の悪いものです。わかればなんだ――ということになります。もう教室にこわいものはないのです。もういつからでも学校へ行けますよ。』

それから二日目、学習途中に、もう学校へ行けると思うとのこと。

それではと、学校へ同行、学校長に経過報告して引きつぎ、約束の三カ月より早かったが、その後、元気に通学していることを確認して、一件落着とした。

ところが、年の瀬もおしつまった十二月二十八日、思いがけない来訪者が自宅にあった。

玄関のせまいこともあるが、父、子、母の順にならんでいる。

『本年は大変お世話になりました。あれから毎日元気で通学しています。成績はあまりかんばしくなかったけれど、何より学校生活が楽しいようで、一家にとってこれはどうれしいことはありません。ほんとうにありがとうございました。』

みんなにこにこして、こんなに明るい一家の姿を見たことはなかった。

『お母さん、ごらんなさい。今、一番前にお父さん、子どもさんが中に、お母さんは後のはしでにこにこしているだけ。はじめ相談所にこられた時は、一番前にお母さん、次に子どもさん、後のはしにお父さん。一手にひきうけて発言されたのはお母さんで、お子さんもお父さんもほとんど何も言うすきがなかったですね。よくなったね。』

今と逆でしたね。『おわかりですか。』

『よくわかりました。ほんとうによい勉強になりました。』

◇…南国市教育相談所は、市民体育館西側の大篠公民館のなかにあります。相談日は原則として、月・水・金・土曜日ですが、相談員が学校などに行くことがありますので、相談にいく場合はあらかじめ電話か手紙で連絡してください。

また、『教育相談余話』についての感想をお待ちしています。相談所または広報広聴係までお寄せください。

広報 意見箱から

◇市民課窓口の記載台が暗く、老人には字がはっきりと読めない。電気をつけてください。（本庁）

◆お年寄りの方々にもわかりやすいようにと、記載台に電気スタンドをつけましたので、ご利用ください。

＝管理課長＝

〝よびかけ欄〟のご利用を…

『広報なんこく』では、市民のみなさんの〝サークル活動〟や〝催し物のお知らせ〟〝不用品の交換や譲渡の希望〟などを紙面にとりあげます。

みなさんのご利用をお待ちしています。申込みは、電話やハガキで広報広聴係（内線407）へどうぞ。

今月の料理②
たき込みチキンライス

◎夏休みも終り、実りの秋を迎える二学期が始まりました。子どもは、〝たき込み〟や〝まぜご飯〟にするとよく食べるものです。

不規則だった夏休みの生活を早くもとにもどすためにも、規則正しい食事を心がけましょう。

◎材料（四人分）

米	3カップ
玉ねぎ	½個
とり肉	200g
バター	大さじ3
グリンピース	½カップ
スープ（トマトケチャップ大さじ3　清酒大さじ2　塩小さじ1½　コショウ少々）	

◎作り方

①米は炊く30分前にとぎ、ざるにあげる。

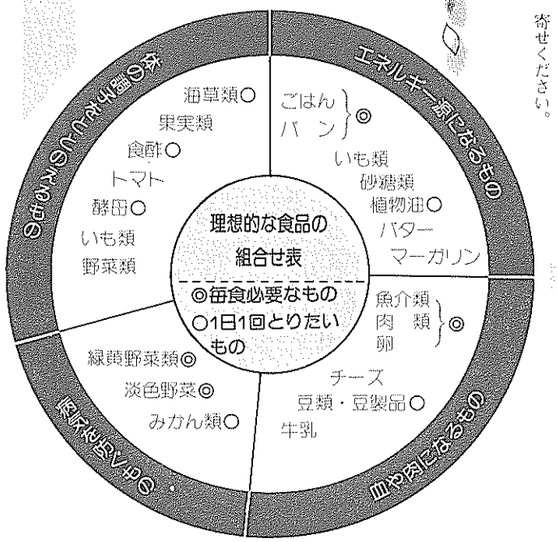
②玉ねぎ、とり肉は5㎜角に切る。

③万能なべにバターをとかし、玉ねぎ、とり肉をよくいため、次に米を加えていためる。

④いためたものに、スープ、調味料を加えて、上下をよくまぜ合わせ、強火で炊く。煮立ったら、弱火にして炊きあげ、グリンピースをまぜ合わせる。

☆目玉焼きなどそえるとボリュームが出ます。

★毎日を健康なからだで…栄養には気を付けましょう



9月の行事

11日・中央高齢者教室『同和教育、手作り花づくり』……10時～3時、社会福祉センター

17日・日本画教室（中央婦人学級）……1時～3時30分、市役所4階大会議室

21日・第13回青年団長杯ソフトボール大会……8時～、香南中学校

27日・俳句教室（中央婦人学級）……1時～3時30分、市役所3階第2会議室